

令和6年度 第4回県政モニターアンケート結果の概要について

1 調査の概要

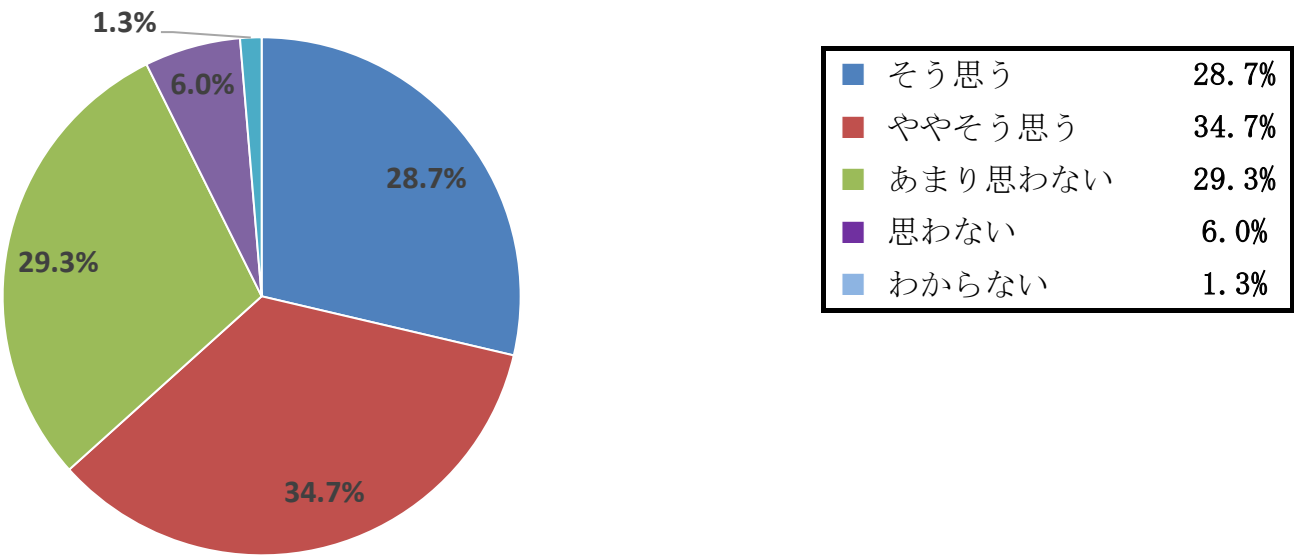
- (1) 調査期間 令和6年11月8日～令和6年11月22日
- (2) 調査方法 郵送、電子申請
- (3) 調査対象 県政モニター 196名
- (4) 回収数(率) 150名 (76.5%)
- (5) 調査内容 富山県内の海岸環境について (環境保全課)

2 調査結果の概要

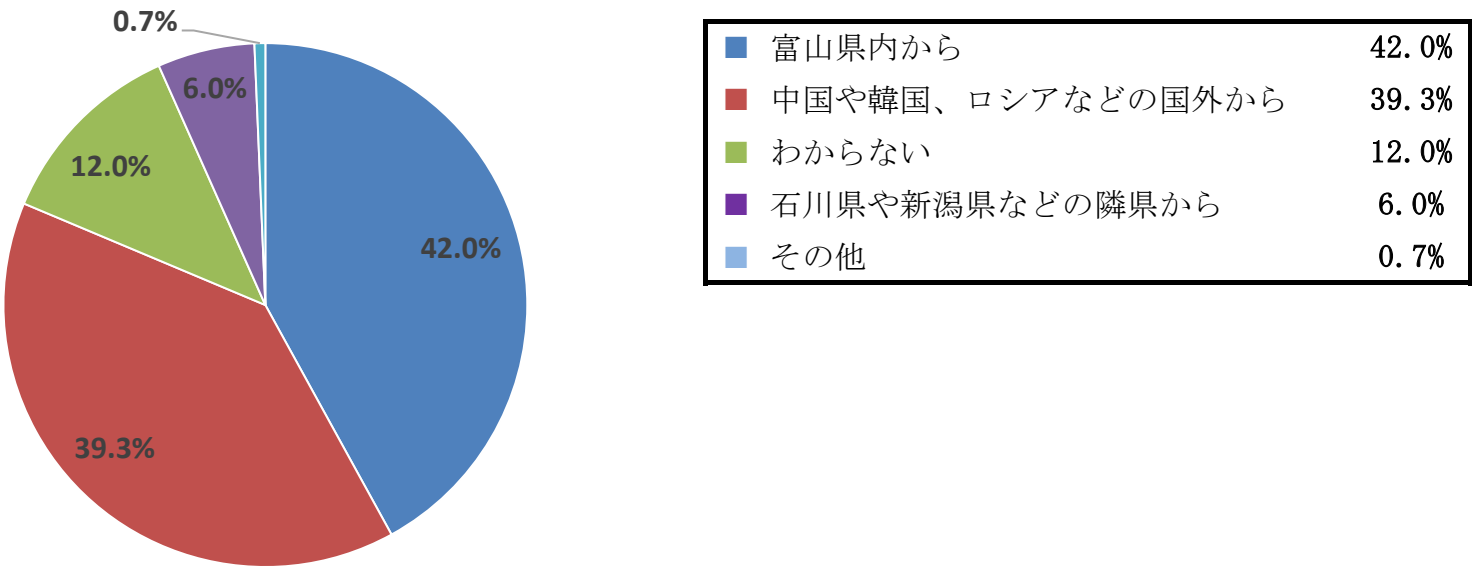
※回答率は、小数点第2位を四捨五入したため、合計が 100 %にならない場合があります。

富山県内の海岸環境について

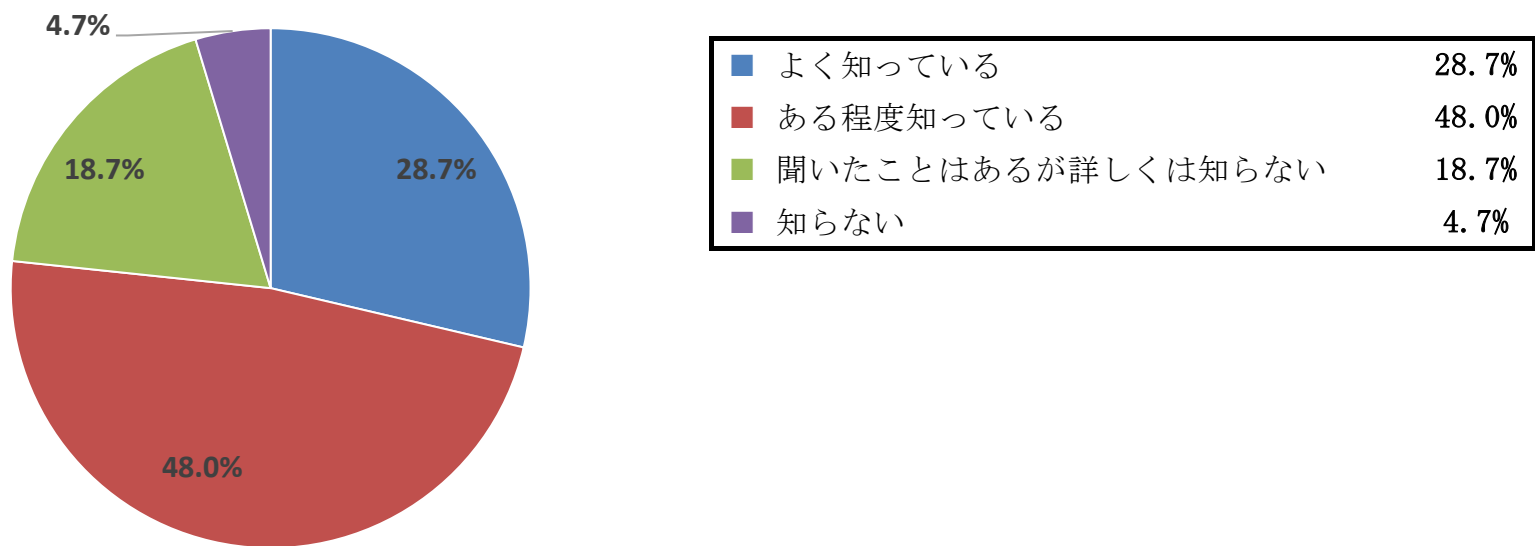
問1 富山県内の海岸は、美しく誇れるものと思いますか。次の中から該当するものを1つ選んでください。



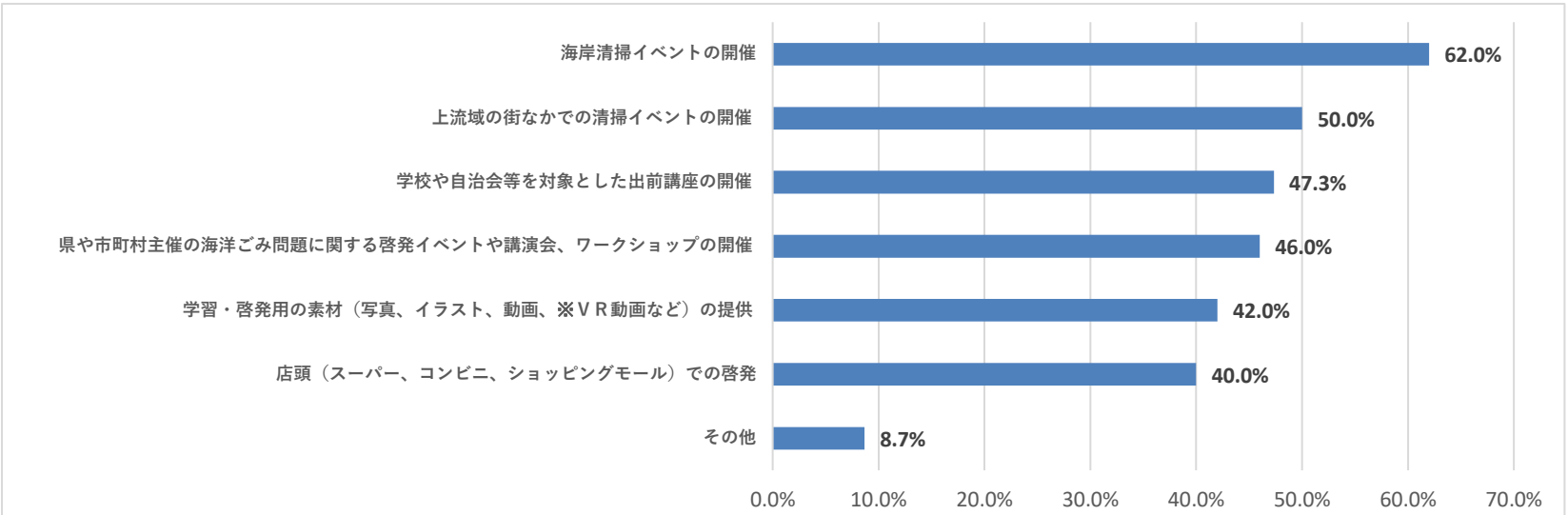
問2 富山県内の海岸に漂着するごみの多くはどこから流れてきていると思いますか。次の中から最も多いと思われるものを1つ選んでください。



問3 レジ袋やペットボトル、発泡スチロールなどのプラスチックが紫外線や波の力で5mm以下に細かく砕けたものを「マイクロプラスチック」といい、魚などの生物が餌と間違えて食べてしまうなど生態系に悪影響を及ぼすことが懸念されています。この「マイクロプラスチック」が県内の海岸にも漂着していることを知っていますか。次の中から該当するものを1つ選んでください。

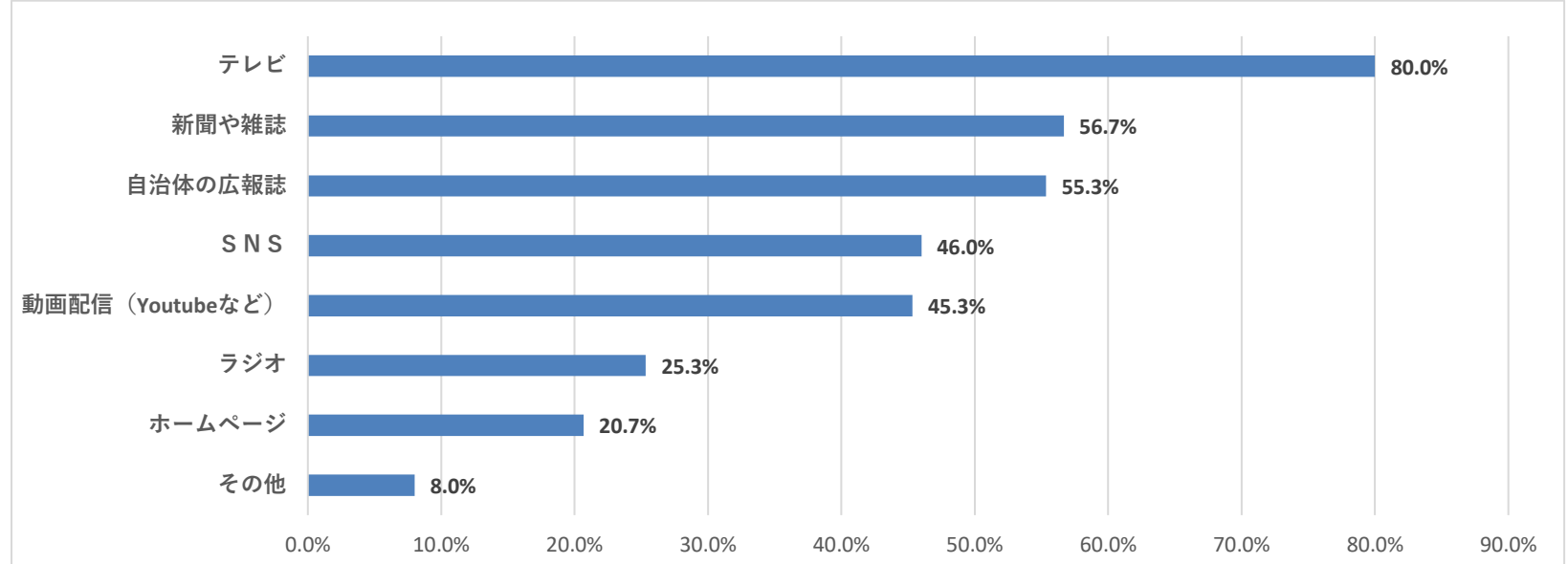


問4 富山県内の海岸に漂着する生活ごみ（マイクロプラを含む。）を減らすためには、沿岸域だけでなく、上流域の住民への一層の普及啓発が必要ですが、最も効果的だと考えられる施策を次の中からすべて選んでください。

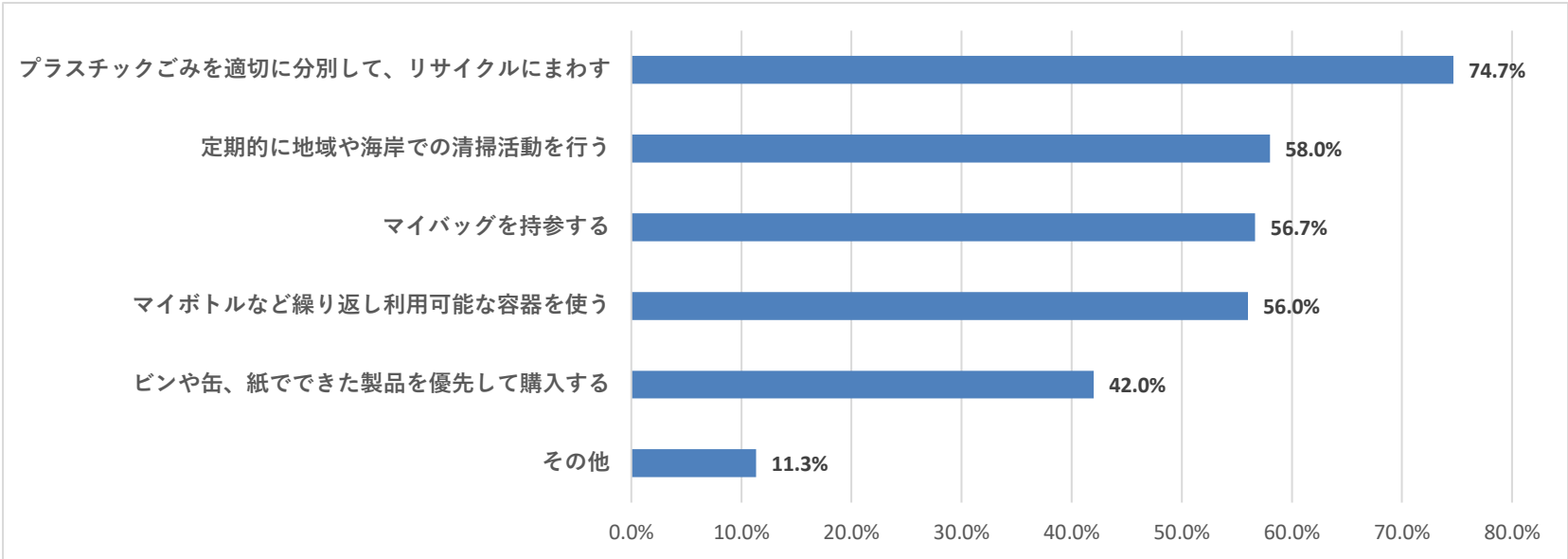


※VR動画：河川から海へごみの流出実態を疑似体験するもの

問5 富山県内の海岸に漂着するごみの現状や問題について、広く県民に発信するとしたら、どのような媒体が学習・啓発に効果的だと考えますか。最も効果的だと考えられる媒体を次の中からすべて選んでください。



問6 漂着物のうち人工物の8割以上はプラスチックごみであり、生活ごみと考えられるものが多く、海岸の景観悪化やイメージダウン、清掃をする沿岸住民の負担になっています。こうした状況を踏まえ、プラスチックごみを出さないように積極的に取り組んでいきたいことは何ですか。次の中から該当するものをすべて選んでください。



問7 富山県内の海岸に漂着するごみには、上流域から河川を通じて流出したプラスチックなどの生活ごみも多く含まれており、上流域での取り組みが大変重要となっています。この現状についてどの程度知っていますか。次の中から最も該当するものを1つ選んでください。

